

先進地調査を行いました

● 総務常任委員会 ●

神奈川県
横須賀市

- 日にち 令和4年10月25日(火)
- テーマ 通信指令業務の広域化について

●所感 2市1町が共同運用する横須賀市・三浦市・葉山町消防指令センターは、横須賀中央駅から近い横須賀市役所の分館に設置されている。消防指令センターの共同運用を行ったことによる効果としては、構成する3市町について、それぞれ3人の人員減が可能となり、出動隊等への配置換えを行ったということ。また、3市町間で相互に消防車や救急車の出動が可能となり、特に市境などでは到着時間の短縮につながっているとのことだった。現在検討されている東濃5市による消防通信指令事務の共同運用の協議では、最も人口が多い本市がイニシアティブを発揮し、より良い共同運用ができるように議会としても協力していきたい。

神奈川県
横浜市

- 日にち 令和4年10月26日(水)
- テーマ 横浜市立太尾(ふとお)小学校区防災まちづくり連携について

●所感 「横浜市立太尾小学校区防災まちづくり連携」は、東日本大震災を機に、防災拠点である学校と地域の連携の必要性からスタートしたもので、太尾小学校地域防災拠点運営委員会が中心となり、自治会、学校、PTA、学童クラブや消防団等が参画する学校を拠点とした防災まちづくりの取り組みである。特色ある取り組みとしては、学区の防災訓練を小学校の参観日と合わせて行い、子ども、保護者、地域住民が一同に参加していること、「太尾小支援ファンド」を立ち上げ、地域の方から寄付を募り、学校予算で対応できない避難所の備蓄品の補填等を行っていることである。市民自らが行動する「自主防災組織」のあり方は、多治見市としてももしっかり参考としていき、今後の地域防災力の向上に生かしたい。



太尾小学校での視察の様子

● 経済建設常任委員会 ●

長野県
諏訪市

- 日にち 令和4年10月25日(火)
- テーマ 諏訪市観光グランドデザインによるまちづくりについて

●所感 諏訪市は、観光による地域活性化を目指すために総合的・長期的視点でまちの将来像を示す「諏訪市観光グランドデザイン」を作成し、行政や観光事業者だけでなく、市民や民間事業者と共に「SUWAらしいがあふれる観光地」の実現を目指している。官民連携、広域連携を図るため、民間事業者や市民も参加したイベントや会議が多く開催され、その会議において「10年後の諏訪市を創造しましょう」が統一されたゴールと定められた。本市においても行政が部署をまたいで統一されたゴールを持ち、複数のプロジェクトが合わさることで大きなムーブメントを創っていくことは可能であると考え。



諏訪市での視察の様子

長野県
千曲市

- 日にち 令和4年10月26日(水)
- テーマ ロケツーリズムを通じた地域振興について

●所感 千曲市のロケツーリズムは、スタートしてわずか2年程で成功を収めた。この取り組みは、前市長の強いリーダーシップの下、前担当者が業界とのパイプ役のほか、千曲市にある資源（撮影箇所、宿泊所、食事、交通など）の情報整理、または民間事業者との連携も含め、しっかりとした信頼を得ることにより進められた。当初、懐疑的であった民間事業者も次第に協力的となり、スタートしてすぐに複数の作品のロケ地となったことで業界からも注目をあびた。

しかし、現在の千曲市は、積極的な売り込みはせず、業界からの反応を待つ姿勢で対応している。これは、トップセールスを兼ねていた前市長や多くの方面との信頼関係を築いていた当時の担当者など一部の人材により事業の成否が大きく変わる性質があることを示しており、本市における採用には慎重であるべきかもしれない。

● 厚生環境教育常任委員会 ●

京都府
亀岡市

- 日にち 令和4年10月3日(月)
- テーマ かめおかプラスチックごみゼロ宣言について

●所感 亀岡市は、2030年までに使い捨てプラスチックごみゼロを目指す「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」を発信している。きっかけは保津川下りの2人の船頭による清掃活動であった。内陸部の自治体で初めて「海ごみサミット」を開催、海洋ごみ対策は内陸部からの発生制御対策が重要との結論から、さまざまな活動が行われている。小さな活動に共感が得られ市民活動へと発展、その中心のエンジンとしての役割が行政であると再認識した。本市においては、環境に大きな影響を及ぼしているレジ袋について、市民や提供する側、双方の意見を聞き、慎重に進めるべきと考える。ウォーキングをしながら行う身近で自由な新感覚の清掃活動「エコウォーカー事業」の実施や、「亀岡未来づくり環境パートナーシップ協定」の締結など企業と共に取り組むことも視野に入れて検討すべきと考える。

大阪府
吹田市

- 日にち 令和4年10月4日(火)
- テーマ 資源リサイクルセンターについて
- 所感 資源リサイクルセンターは、廃棄物処理施設に市民工房や市民研究所を併設した複合施設である。昭和45年に吹田市で開催された日本万国博覧会が使い捨てを是としたものであったこと、環境配慮に欠ける生産活動により各地で公害問題が起こったことを背景に、循環社会の構築を目指した施設である。市民工房は常時開設され、衣類のリメイク、木工製品制作、自転車や家具の修理などリサイクルを経た制作活動が行われていた。この種の施設は近隣から敬遠されがちだが、関連した施設や工房等、住民がふれあえる空間を併設することにより理解が得られるものと考え。多治見市においても環境についての啓発活動の実践や体験する場の常設が求められる。



資源リサイクルセンターでの視察の様子

この議会だよりは1部当たり11.05円(税込み)で、40,300部作成しています。



リサイクル適性(A)

たじみ議会だよりは環境に配慮した再生紙と植物油インキを使用しています。
この印刷物は、Aランクの資材のみを使用しており、印刷用の紙にリサイクルできます。

この印刷物を破棄する時は、燃やさないで、資源回収等にしましょう。